常磐文藝

性格破産者の歌へる

漂泊哀歌

吾郎

漂泊ひて今日で幾日ぞよごれたるシャーツの袖の淡き悲しみ。

× ×

母のみの母に逐はれて今日幾日死を欲す心うすらぎにけり。

× ×

『幸あれ』と吾を逐ひたる母を祈る此の頃吾の心淋しも

× ×

『何處へ』と已に向へど知らざりき漂泊の日のとある夕暮。

× ×

今宵亦ここ淺草の雜沓に吾を見出し淋しき心。

× ×

色も戀も今はあらじと思ひつゝ君忘れ得ぬ漂泊の果て

× ×

消息も暫く書かず愛ほしきかの明眸も曇りけらしな。

絶對はげぬ

インダンスレン染料　ひさかた眞岡中形

染の特色

1、石鹼や曹達を使用する家庭的洗濯法に對しては絶對に變色なく寧ろ洗濯の度毎に色相の美を發輝する特色を有してゐます

2、白布と共に洗濯しても決して白布を汚しませぬ

3、盛夏の日光の最も熾烈なる炎天下に直射乾燥せしめても斷じて褪色致しませぬ

特約店　三井吳服店　平町三丁目　電話園三十八番

平町商店　標準物價

▼佐藤葡萄酒舖　平町郡役所前

白葡萄酒	一升入	一圓五十錢
赤葡萄酒	仝	一圓四十錢
果實蜜（甲種）	四合入	四十五錢
果實蜜（乙種）	仝	四十錢

▼松本菓子店　平町四丁目（電話三四番）

ビスケット	百匁	二十錢
ドロップス	仝	四十五錢
龍燦あられ	仝	四十錢
チヨコレートクリーム	仝	八十錢
コーヒ入角砂糖	仝	三十五錢
粉末コーヒ罐入	一罐	四十錢
森永ミルク	一本	四十五錢
ドライミルク	一本	壹圓
ミルクココア	六十匁入	六十錢
いちごジヤム	十五オンス入	壹圓

▼高倉コサツク萬年筆製造元　平町三丁目

コサツク印萬年筆	一本	一圓五十錢ヨリ
十四金ペン	一本	七十錢ヨリ
シヤープペンシル	一本	五十錢 六十錢

『別仕立夏トンビ！　洋傘　夏帽子　新荷着』

に 鶴屋　平町四丁目　電話一四〇番

美味と經濟の　西洋御料理　丸昇軒食堂　電話園四三九番（丸昌材木店隣）

御入浴も御散歩の折にも御隨意ですから是非お立寄を願ひます

……女給 ボーイ募集……

御設備下さい

文化生活の强敵なる恐るべき蠅の撲滅の爲に

驚くべし一匹のハイは、百參拾萬の細菌を保有して居るそうです

專賣特許のハイトリツク　蚊とり兼用器　特價 金四圓五拾錢

平町五丁目（電話園九番、一三九番）

和洋銅鐵金物問屋　久　釜屋商店

牛肉と葡萄酒

米國スエット會社一號 コンビーフ牛肉　正味九十匁入一罐　金四十錢

甲斐産商店勝沼工場製 大黑葡萄酒　正味一升入　金一圓七十錢

洋酒罐詰食料品商　西村屋藥舖　平町二丁目　電話園三番

大蒲燒。鰻丼

多少に不拘御用仰付願上候

割烹 大和家（じようばん）　平南町（電話十四番）

▼外交員募集▲

業務簡易月收百圓以上あり

各自居宅に在りて本店との連絡取れます

御希望の方は履歷書持參の上御來談あれ外に優遇の方法あり

福島無盡株式會社 平代理店　現物賣買株式店

大谷保太郎商店　平町南町二〇（公會堂角）　日本勸業債券通信社　電話園二三四番

平町紺屋町　吉田眼科醫院

株式賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	七三〇
磐越銀行	一二五	一〇五
磐城實銀	三〇〇	二九五
田村實銀	一二五	一二五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二四五
同 新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同 新	一二五	一六〇
七七銀行	一二五	九八
郡山電氣	五〇〇	三八五
同 新	二五〇	一八〇
只見川電	一二五	七三
植田水電	一二五	一五五
好間水電	一二五	一四〇
磐城建物	一二五	五五
磐城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	三五〇
磐城勸業	一二五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二五〇	二三〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一一〇
磐城炭礦	五〇〇	四三〇
同 新	二二五	一九〇
磐城セメント	五〇〇	六八〇
同 新	二五〇	三七〇
平運送	一二五	八〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候

東新株　先限　實物

前場後場共入電致居候

平町田町　電話三三二番

丸登株式店

川添房二郎

常磐毎日新聞

六月廿六日夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月極ニ限リ一ヶ月卅錢

廣告料　五號十二字詰一行五十錢

休刊日　日曜大祭日　祝日ノ翌日

福島縣石城郡平町田町卅六番地　印刷所　一〇活版所

發行兼編輯人 印刷人　川崎文治

福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地　發行所　常磐毎日新聞社

寄書

赤裸々

中山雅司

赤裸々は原始的である。人間も太古は犬猫同樣兩性の局部を日光に曝して、恥かしき事とも思はず平然と生活して居たに違ひは無い處が世は進み、裸體に對する羞恥の念と醜惡の觀を生じてより、男女互に樹木の廣き葉を取り綴りて裳を作り或は獸皮の褌を發明せり

爾來幾世の後衣を纏ふと言ふ禮儀が出來、他方に於て皮膚か段々弱く成つて來て遂に綿服の製造となり、染料機業の發達を來らし今日の狀態に及べり

されども一點の局部に羞恥の念を宿せるは幾萬年依然として、一貫せるのみか人事益々複雜となれる結果初め淺く包みし扉も次第に深く包まれて、遂に神扉の如く閉さるに至れり

されど人間は裸體を秘する爲めに努力する反面、昔忘れぬ本能の衝動がチョイ〳〵頭を擡げて幾重にも包まれた底の底まで覗いて見たいと言ふ、矛盾した觀念を懷くことがある。加之此慾を達せんが爲め隨分多くの犧牲や代價を拂つて居るから頗る妙である

女優や旅藝人の內幕を書いても洛陽の紙價爲めに高くわらい書を文章にしたやうな物を出版しても安々と洋行が出來、船の專務長に遣責までされて人妻に接吻を强要し、それをモデルにした小說が何十版の賣行を示す、婦人雜誌は大膽なる告白文に依つて賣れ男子また歡んで是れを購ふ裸体書は如何、春畫はどう、至る處社會の裏面に盛んに賣れて行く世の中である

觀じ來れば人事一切世態の萬事、枝は榮へ、葉は繁り幹を隱せど、心頭は不斷に『眞』を求む『眞』とは即ち赤裸々の事である。

許可反對の聲を以て
隅なく全町を風靡
大平町の萬全を期さんと
區民の大會を開いて結束

大瀧發電所許可反對の氣勢は請願團の出縣や反對同盟會の活躍に依つて一層沸騰し全町殆んど隅なく反對の聲を以つて風靡するに至つた而して憂町の士の多くは此機運を逸せず各區が夫々同一の歩調を以つて此問題に當り町百年の大計を樹立する上に於て萬全を期さんとの意嚮を有するもの〻如く其方法の一つとして各區が區民大會を開いて結束の歩武を定むべく計劃中の由であるが先づ研町及び古鍛冶町にては本日午後五時より天理敎會に出縣請願報告會を開會し長橋町及び新町にても本日午後七時から性源寺に於て區民總會を開催伏見助役香野水道課長の臨席を乞ひ詳細に亙つて大瀧發電所問題の經緯を聽取し決議文を可決する由であるから今後引續き各區に開かれる區民大會の結束と共に一層氣勢は高調し成行如何は蓋し注目に價するもの多々あるべく觀測される

反對同盟會に
寄附金
趣旨に賛して

平町材木町町會議員櫛田榮太郎氏は大瀧發電所許可反對同盟會の趣旨に賛し一層運動を可能ならしめんと卒先金卅圓を寄附し四丁目同百澤易興氏も同様卅圓を寄附した

井上縣議が
知事を訪ね
請願團の熱誠
其他を報告す

平町民對大瀧發電所許可問題に關し縣參事會員井上茂作氏は廿五日出張中なる知事滯在地那麻郡吾妻村中の澤温泉に到り平町よりの出縣請願團の熱誠其他を報告し極力取消しを求むべく陳情した

伊坂町長
今明日中に歸平

行政訴訟提起の爲め滯京中であつた伊坂町長の一行は既記の如く各省に向つて請願運動に奔走して居たが今明日中に歸平する由

ウソ萬八の
新聞は讀まぬ
同盟會の協議

大瀧發電所許可反對同盟會にては本日午後三時から水道課樓上に幹部會を開き取消運動に對し故意に曲筆舞文して不實な報導を是れ事とする東京日日新聞及び福島民友新聞の通信員に對抗すべき方法に關し協議する處があつたが多分不讀同盟の行動に出ずるであらうと

中堅青年の
講習會
來月磐中にて

石城郡に於ける中堅青年講習會は例年優良な成績を擧げて居るが本年も來月廿五日から五日間磐城中學校新校舍に開催することになつた講習生は百名を定員として各町村二名づ〻を選拔し滑川磐中校長の指導主任で大越郡視學其他により青年必須の講習をなす筈であるが本年は新校舍の建物が未だ完成しないので寄宿舍だけは舊校舍を充て之れが爲めに朝夕の修業誦讀訓話等の時間割に就き目下研究中

植電の社服

石城郡植田町植田水力電氣株式會社では此程從業員に對する從來の印袢纏を廢し電工以下に迄一定の社服を給與着用せしむることゝなつた

霞ヶ浦航空隊が
小名濱にて飛行演習
來月七日から五日間
▽……將卒百七十名

茨城縣霞ヶ浦航空隊にては靜岡縣下に於て飛行演習を試みるべき豫定の處同地にペスト發生した爲め豫定を變更し來月七日から十二日迄石城郡小名濱町に於て海水浴を兼ね飛行演習すべく決定せる由であるが人員は將校約十四名下士卒百五十五名であつて宿舍割等の準備を要する爲め今明日中に將校若干名實地視察に來濱する由

磐城炭礦にて
被害地賠償
白水側有利
圓滿に解決

既報石城郡内郷村大字白水對磐城炭礦の被害地賠償に對する紛擾問題は其後郡役所や役場に於て屢々折衝協調し磐城炭礦にては

一、被害地に對し相當修理を施す事
二、灌漑水に欠乏を來したる時は之を供給するものとす
三、收量の減收に對しては其減收等を賠償する事

等の條件により去る廿四日圓滿解決した因に被害地區域は水田二町三反三畝歩であると

不平受付
投書歡迎

◉白米の桝目◉　玄米は米穀檢査所の手に依つて品質や俵裝の檢査を受けますが白米は何等の檢査を經ずして賣られる爲めに中には隨分桝目を切らして捌賣する者等もあります何んとか取締法はないものでせうか（不平生）他に同様投書一通

▽伊藤平署長の答　一斗以上の白米は一斗桝を使用する事になつて居るが實際には一斗桝を使用して居ないものもあるから近く捌賣米の量目檢査を行つて見る考へで居りました

募集　文藝其他一般投稿を募集します

カテイラン
梅干の漬方

なるべく肉の厚い粒の揃つた上等の梅を、一晩水につけて灰汁をぬきます。翌朝ザルに上げてよく水氣を切り、梅一升につき鹽三合の割でカメに漬け込み、壓蓋をきせてその上に輕い壓石をかけておきます。別にシソの葉を洗つて鹽で揉み、出た汁をすつかりしぼりてすてて、前につけた梅の中に入れ、よくまぜ合せておきます。かうして漬けておいた梅を、土用の熱い日に干して梅干にするのであります干すにはまづ四五日天氣のつゞきさうなときを見計ひムシロか、すのやうなものの上に擴げ、梅が重なり合はぬやうにして干します。そして一日のうちに二三回梅を上下にかへして、平均に日光をあてなくてはなりません。夜も雨さへ降らねば外に出したまゝ、夜露をかけてさらした方がよろしいのです。三四日も干して充分乾きましたら、瓶かカメに入れて貯へます。

×　×　×

常磐片々

○不撤底な辯明書等を發表し大言壯語して居た東土木課長
○三百の請願團押し寄すと聞いてドロンを極め込む
○イッソ一思ひに課長の椅子からドロンを極め込む方が萬全の策だ
○小名濱にて飛行機演習
○然も其期間五日間
○避暑客吸引の爲めには天からボタ餅

平町に
俠政會成る
正義に基く
政策を實行

世界の思潮に順應して青年の政治的自覺を促進せしめ人格の修養智識の啓發に努めて自由と正義に基く各種の事業及び政策を實行せんと平町伊藤一、赤塚彰男、橋本成一其他の諸氏が石城俠政會を組織し左の宣言を發表した

茲に石城俠政會成るに及び敢て天下に宣す

世界は今や建設的に向ひつつあると雖も未だ舊習を脱せず吾人同志の寒心に堪へざる狀態なり此秋に當り日東帝國仁俠の士は其責任の重大なるを懷ひ相寄り相助け男兒の意氣と力を以つて些か邦家に奉獻し又眠れる無産者階級等を奮起せしめ自治に政治に其本分を盡さしめ吾人同志は互に結束を固ふし自由と正義とを標語とし以て此の一大時機に臨み克く自ら之を匡救せんとす本會は將に頽廢せんとする社會の風紀を改善し立憲治下の第二國民の中堅たる可き青年の政治知識の啓發及び人格向上を圖らんと欲す抑も國利民福は立憲政治の完全に期せざる可からず故に進んで最善の國策事業に向つて奮起して之を主張し最に凡有因襲の打破に努め志氣を鼓舞して眞の大正維新の先驅たらん事を期す

平町の人口は
一日平均に
二人四分增加

平町は最近異常の發展を示し人口の增加率は一日平均二人四分で十一年には七百七十一人十二年度に七百四十五人を增加して居る現在人口二萬四千七百八十四人外に無寄留者も多數で優に三萬人を算すべく小學校舍の如きも狹溢を告げ第三小學校の設備も成らんとして居り今後小名濱商工の實現と相俟つて大平町の建設も眼前に迫つてゐる

梅雨は切上げ
夏らしい氣分
昨日の暑さ

去月下旬頃から梅雨期に入つたような陰鬱な天候を持續し十一日の入梅以來既に十五日を經過した例年ならば七月上旬には梅雨あけの夏らしい氣分を見せるだらうが本年は前記の如く入梅期日前に梅雨らしい天氣であつたから割合に早く上がらうといふのが素人觀である然るに一兩日前から俄に暑くなり昨日の如き場所によつては八十八度位に上昇したので此分では例年より早く梅雨が明るかも知れぬ

平町人事

▽出生
△紺屋町　佐藤作平氏二男邦武
△舊城跡　中井寄記氏長男孝記
△柳町　青山利職氏二女トヨ

▽婚姻
△長橋町　桑原唐夫氏（[illegible]）新町小幡シゲ（[illegible]）